

2015年度 大学コンソーシアム京都SDゼミナール募集要項

2015年4月
公益財団法人 大学コンソーシアム京都

1. はじめに

大学コンソーシアム京都では、2015年度から、加盟校を中心とする各大学・短期大学における次世代の大学運営を担うプロフェッショナル職員の育成を目的として、SDゼミナールを開催いたします。

「知識基盤社会」の本格的な到来が指摘される今日、少子高齢化やグローバル化の進展など高等教育を取り巻く環境は劇的に変化し、より一層不透明さを増しています。中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」（2012年）では、予測困難な次代を切り拓く人材や学術研究への期待を掲げるなど、大学に対する社会からの期待はますます大きくなっています。また、中央教育審議会の大学分科会組織運営部会「大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）」（2014年）では、学長のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制の構築が不可欠であるとし、学長がリーダーシップを発揮していくための補佐体制強化の観点から、IRや入学者選抜、教務、学生支援、人事や財務、広報等各分野に精通した「高度専門職」の設置や、恒常的な大学職員のスキル向上のためのSDの義務化等が検討されています。

このような状況を踏まえ、大学職員には大学運営に携わるプロフェッショナルとして、次代を見据えた的確な舵取り能力と、環境の変化や社会のニーズを正確に分析し、それを組織における意思決定や社会的使命である教育・研究に反映させる能力が求められています。

2. 研修の目的

- ① 大学職員として必要な知識を体系的に習得できるカリキュラムを提供し、今後の大学運営を担ういわゆる「プロフェッショナル」職員の育成を目指す。
- ② 5年以上の職務経験を積んだ職員を対象とし、ステップアップをめざしている職員の導入的な研修プログラムとする。
- ③ 受講生が大学の枠を超えた人的ネットワークを形成し、所属大学において、今後の大学間連携や交流のキーパーソンとなるような機会を提供する。

3. 研修の到達目標

- ① 大学職員として必要な基礎知識（高等教育制度、学生実態の把握、大学と社会との関連等）を得る。
- ② 他大学の職員と共に学び、情報交換することを通じて、自大学と異なる事例や取り組みに関する見識を深める。
- ③ 受講生間で親交を深め、大学の枠を超えた人的ネットワークを形成する。
- ④ 相互に切磋琢磨する環境の中で、職業人として自律的に学習・考察する態度を身につける。

【プロフェッショナル人材になるために必要なこと】

- ・技術的側面（専門性など）での成長
- ・管理的側面（自主性、同業者への準拠など）での成長
- ・精神的側面（貢献など）での成長

※『経験からの学習』（松尾睦、同文館出版）より

4. 実施概要

開催日時：2015年6月13日（土）～7月25日（土）の午後（90分*2コマ）※1

最終報告会（受講生公開プレゼンテーション）：9月12日（土）9：00～17：00

会場：キャンパスプラザ京都（予定）※2

※1：一部の講義については、実施時刻が変則的になる可能性があります。

※2：7月4日は臨済宗妙心寺派大本山 妙心寺にて実施

5. 募集人数

20名（財団のSD研修委員会による書類選考を行います）

6. 参加対象

職務経験5年以上の大学職員（職位は問わない）

7. 研修内容

※役職は2015年4月現在

講 義 概 要	
第1回	<p>6月13日（土）オリエンテーション-事務局ガイダンス-</p> <p>大学内外での学びと実践-人と出会い、学び合うことによって、新たな自分に気づく-</p> <p>担当者：山崎 その 氏（京都外国語大学・京都外国語短期大学 総合企画室 参事）</p> <p style="text-align: right;">※2004年度 財団大学アドミニストレータ研修第1期修了生</p> <p>講義の目的・獲得目標：</p> <p>大学は、1990年代に大きな転機を迎えました。大学職員の働き方も変わってきました。従来と同じことを、同じように、ただ「がんばる」だけでは通用しなくなっています。組織研究の第一人者である太田肇氏は、努力の「量」ではなく「質」が肝心だと指摘しています。「質」を高めるためには、新しい知識や発想の転換が必要です。</p> <p>本講義では、SDゼミナールの前身であるアドミニストレータ研修第1期生として、社会人大学院生として学んだ時の経験談などを交えながら、大学職員の学びについて具体的な事例をお話しします。このSDゼミナールで「いまから何を学ぶのか、どうやって学ぶのか」を考え、それぞれが得たいもののイメージを掴んでいただくことを目的とします。</p> <p><獲得目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の内外における様々な学び方を説明できる。 ・どのような考え方、スタイルでSDゼミナールに臨むのかについて、自分の言葉で説明できる。 ・研修終了後も、自発的に学び続ける自分の姿をイメージできる。 ・共に学び合うための新しいルールを理解する。
第2回	<p>6月20日（土）</p> <p>大学の歴史と制度-大学の歴史的展開と大学改革の動向-</p> <p>担当者：江原 武一 氏（京都大学 名誉教授）</p> <p>講義の目的・獲得目標：</p> <p>講義の目的は、大学の歴史的な歩みと制度的な特徴をふまえて、日本の第二次世界大戦後の大学政策や大学改革の動向と課題を理解し、所属大学の改革の取組や成果、課題を考察する手</p>

がかりをえることです。具体的な獲得目標は次のとおりです。

- ・大学の歴史的展開や日本の大学改革の動向と課題を考えるための基本的な見方や用語を理解し、活用することができる（知識）。
- ・所属大学における大学改革の課題や方策を、自分自身の経験や知見をふまえて分析し、主体的に論じることができる（価値観・態度）。

第3回 6月27日（土）

学生と大学教育－学生の学びと実態とは－高校教育との接続から考える

担当者：椋本 洋 氏（立命館大学 講師、元接続教育支援センター長）

講義の目的・獲得目標：

1. 高等学校の新課程の学習内容を理解する（知識・理解）
2. 大学生の実態を知る（意欲・関心・態度）
3. 所属大学の教育改革（特に入学前教育・初年次教育）を考察する（思考・判断・表現）

第4回 7月4日（土）

大学職員と“こころ”－臨済宗妙心寺派大本山 妙心寺での実践研修－

担当者：法話 妙心寺派常任布教師 長島 宗深 師

坐禅 堀田 泰邦（妙心寺派宗務本所 法務部）

講義の目的・獲得目標：

まずは捨てることから。からっぽにすることで新しい「自分」というものが見えてきます。
衆生本来仏なり

第5回 7月11日（土）

大学組織の活性化－内発的モチベーションを考える－

担当者：藤本 哲史 氏（同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授）

講義の目的・獲得目標：

- ① 内発的モチベーションの考え方を理解すること。
- ② 働くことと心の動きの関係、職場における人の動機付けられ方について理解を深めること。
- ③ 受講生自身および周辺の他者（職場の同僚、部下、クライアントなど）のモチベーションに関して理論をもとに分析すると同時に、職場づくりに関して実践的なアイデアが出せるようになること。

第6回－1 7月18日（土）

大学と社会－地域連携の意味と大学の役割－

担当者：深尾 昌峰 氏（龍谷大学 政策学部 准教授）

講義の目的・獲得目標：

人口減少時代、超高齢化社会を迎える中で、社会が求める大学の役割、地域社会に根ざす大学のあり方が問われている。これまでの大学連携や地域連携の事例をもとに、これからの大学の役割を考え、スタッフ部門の役割と求められる能力について考える。

第6回－2

アカデミック・プレゼンテーション－プレゼンテーションの「スキル・ツール・マインド」－

担当者：村山 孝道 氏（京都文教大学 教務部教務課長）

※2009年度 財団大学アドミニストレータ研修第6期修了生

講義の目的・獲得目標：

■目的

プレゼンテーションは「Public communication（公の場のコミュニケーション）」の一形態です。本講義の第一の目的は公開プレゼンテーションに向けた準備（スキル・ツールを知る）ですが、それに加え「他者に伝える」とはどういうことなのかという、コミュニケーションの視点（マインド）についても取り上げたいと思います。

■獲得目標

- ・プレゼンテーションの特性を理解する
- ・プレゼンテーションの基本的なスキルの概略を理解する
- ・プレゼンテーションに活用できるチップスを獲得する

第7回-1 7月25日(土)

大学の戦略とリーダーシップ-戦略を創出する組織づくり

担当者：吉武 博通 氏 (筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授)

講義の目的・獲得目標：

大学改革の名の下に、種々の取組が展開されているが、それらが教育研究の高度化や経営基盤の強化を通じて、個々の大学の社会的存在価値の向上に繋がっているのかという問題意識に立って、あらためて大学における戦略の意味を問い、その創出・推進に主導的な役割を果たす大学スタッフが身につけるべきリーダーシップについて、その本質と養成のあり方について講義し、共に考える機会を提供する。

第7回-2

アカデミック・ライティング

担当者：吉武 博通 氏 (筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授)

講義の目的・獲得目標：

学術研究も実務も、事実を客観的に把握・明確化し、それに基づいて論理を組み立て、文章にしたり、プレゼン資料を作ったりして、発表するという点で、共通する点が多い。限られた時間ではあるが、そのエッセンスを講義する。

9月12日(土) 受講生公開プレゼンテーション

8. 研修の運営方法

- 各回のシラバスに沿った研修運営を行います。また、講師はファシリテータの役割も果たし、受講生の積極的な討論も取り入れていきます。
- 修了レポート(後述)の執筆を念頭に、最終回に「アカデミック・ライティング」の講義を行います。また、希望者には、SD研修委員等によりレポートのアドバイスをを行います。
- 受講生には、毎回受講後に「講義アンケート」にお答えいただきます。
- 毎回の授業をビデオ撮影し、講義を欠席した受講生には後日提供いたします。
- 公開プレゼンテーションは修了レポートのテーマに基づいて実施していただきます。このため、開講当初より、具体的な個人の研修テーマ(例：アドミニストレータ育成論、教学改革論、大学組織論など)を持って、講義や演習に臨んで下さい。

9. 修了要件

原則として、下記の全ての条件を満たした受講生に「修了証」を授与します。

<修了要件>

- ・公開プレゼンテーションを含む講義8回のうち、5回以上の出席
- ・最終レポートの提出

※公開プレゼンテーションには極力参加すること

<修了レポート執筆要領>

文字 : 10.5ポイント、MS明朝

形式 : 「Microsoft Word」にてA4、横書き、余白(上35mm、下30mm、左右30mm)、40字×30行で設定。

分量 : 6ページ以上10ページ以内(図表・参考文献等を含む)

締切 : 2015年10月末

10. シラバスおよび教材について

受講生には、受講決定通知と同時に、シラバス(教材・参考文献リストを含む)を配布します。また、初回講義時のオリエンテーションにおいて、具体的な研修プログラムの運営方法についてご説明いたします。

1 1. 受講申込み方法等

受講申込み方法は、【A】所属の大学・短期大学（以下「大学等」）を通じてお申し込みいただく方法（以下、機関申込）、と【B】個人でお申し込みいただく方法（以下、個人申込）、の2種類があります。申し込みに先立って、大学等の人事・研修担当部課にて、どちらか一方の申込み方法をお選び下さい。（1大学等で、【A】【B】2つの方法を併用することはできません）。

	【A】機関申込	【B】個人申込
【STEP1】 お申込み	<p>所定用紙※1に必要事項を記入の上、<u>所属の大学等を通じてメール添付</u>にてお申し込み下さい。</p> <p>注：各大学での取りまとめにあたっては、後述の締切までに集約が完了できるよう、学内集約期日の設定をお願いいたします。</p>	<p>所定用紙※1に必要事項を記入の上、メール添付にてお申し込み下さい。</p> <p>注：申込に際しては、所属大学が『【A】機関申込』を採用していないか、事前に人事・研修担当部課宛てに確認をお願いします。</p>
	<p>申込先：sd@consortium.or.jp ※2 締切：4月30日（木）（必着）</p>	
【STEP2】 選考	<p>受講申込書に基づき、書類選考を行います。</p>	
【STEP3】 受講可否のお知らせ	<p>5月中旬以降に、<u>所属大学等を通じて</u>本人宛てに通知します。 その際、受講料の振込口座などをお知らせします。</p>	<p>5月中旬以降に、本人宛てに通知します。 その際、受講料の振込口座などをお知らせします。</p>
【STEP4】 受講料のお支払い	<p>所定の期日までに、当財団の指定口座にお振り込みいただきます。</p>	
【STEP5】 受講	<p>受講開始（6月13日）</p>	

※1 別添資料あるいは財団ホームページよりダウンロード（Word形式）することが可能です。

用紙は【機関申込】と【個人申込】に分かれています。

URL：<http://www.consortium.or.jp/> [トップページ→高等教育関係の方→SDゼミナール]

※2 機関申込にあつては、受講申込書とともに、所定用紙による名簿をご提出いただきます。その際、同一大学より複数名の応募がある場合は、名簿の該当欄に必ず優先順位をつけてお申し込み下さい。また、いずれの申込方法の場合も、メール送付時には、件名に「【SDゼミナール申込】（所属・氏名等）」と記載してください。折り返し、申込み受領の返信メールをお送りします。

1 2. 参加費および納入方法

加盟校職員：30,000円、非加盟校職員 60,000円

受講許可後、所定の期日までに当財団の指定口座にお振り込みいただきます。

※ 一度納入された受講料は、研修開始後受講を辞退されても返金はいたしかねます。

1 3. 受講申込書送付および問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 教育開発事業部（SD事業担当）

所在地：〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL：075（353）9163 FAX：075（353）9101

e-mail：sd@consortium.or.jp

以上